

フランス小話

高島 淳
(昭和55年修士終了)

フランスに四年滞在していたといっても、生活の場が学生仲間の範囲内であるので、その限りではどの国でも共通した面の方がはるかに多い。そこで、伝聞等にもよりながら、皆様がおもしろがられるような話をいくつか述べてみよう。

「教育パパ」

教育ママというと、いかにも日本的現象と思う人が大部分だろうが、次の話はフランス版教育パパ。82年の春だったと思うが、北フランスの田舎町で父親が息子の嫁を殺すという事件があった。この父親は炭鉱夫で、息子だけは社会的階段を登って欲しいと、必死に息子に勉強させ、とうとう医

者にしたのだが、その妻が離婚すると言い出したため、そんなことになったら必死に育て上げた息子の社会的生命が終りになると思ひ余って嫁を殺してしまったもの。パリなどでは離婚など当り前のことだが、田舎ではまだまだなのか、あるいはこの父親のカトリック的意識が強かったのか。一つ注意しておくべきでは、地方で名士と言えばまず医者か公証人かというそのprestigeの高さである。

これは友人のイタリア人の友人の話だが、アメリカで小金をためて小さな店をやっていた男が息子を大学にまでやった。息子の卒業式の日に彼はやって来て盛大なお祝いをやった。息子は、「大学を出たって仕事を見つけなければ何もならないよ」と父親に言った。父親は、「そんなことはどうでもいい。お前がたとえ畑を耕やそうが、これでお前はingegnere（英語のエンジニアに当るが、昔の学士と似たひびきを持つ）なんだ。」

「Pot について」

Pot とは瓶のことで、転じて「ちょっと一盃」をprendre un potと言うが、ここ十年ぐらいから用いられ始めた用法がorganiser un potという言い方。会社等で仕事の終わった後で皆が金を出しあって酒やつまみを買えばらくおしゃべりして過ごすというもの。これは以前にもなかった訳ではないが、盛んになったのはこの十年ぐらいのことだそう。御承知のとおり、フランスの会社は個室主義で会社では仕事以外の人間関係は殆んどないようなのが一般的と言えた。Potを行うということは多少日本的な社会内人間関係に近づこうというような動きかもしれない。これは意図的なHR運動というようなものではなく、全く自発的なものである。個人主義的傾向が頂点に達してそれに対する反動が秘かな底流として動き始めているようにも思える。Louis DumontのEssais sur l'individualismeは84年に出てかなり話題となったが、彼の論は20年来基本的には同じだが従来は全く一般の人の関心を引くことがなかったものである。その他、去年でたPhilosophie politiqueという大著の著者（名前は忘れたが）も抽象的原理からではなく具体的な人間関係の場や親密

さのようなことから新しい政治哲学を構想したいと語っていた（ラジオで）。神が消えた後も、一つの真理といったものへの信仰は強く存在していたのだが、ようやくそうしたものへの反省が拡がりだしたのかもしれない。こうしたことの背景にはフランスの多民族化ということがあるが、もちろんフランス人の恐らく5割以上はこれに強い反発を感じている。しかしこの問題についての個人差は極めて大きいので、今一般的に語ることはやめておきたい。

「日本の龍について」

ラジオで社会学者が低開発国の経済発展に対する信仰等の影響についてしゃべっていた。するとアナウンサーが、「日本の経済発展の一要因たる工場の海岸立地も、実は国の中央部には龍が住むとされ、それを恐れて海岸に立地したそうだが本当でしょうか？」。社会学者は日本については良く知らないと何も答えなかったが、誰がこのアナウンサーにこんなことを教えたのか？またこの人が日本の地図をまともに見たことがない（内陸部が大部分山地であると気づくはずだから）のは明らかである。フランスでの日本関係の情報の量は近年非常に増えているが、バランスのとれたイメージを得るようになるにはまだまだ先のことだろう。多くの人にとっては「日本は月よりも遠い」国なのである。

「遠近法（Perspective）について」

中高校時代の話をしていすると、フランス人やイタリア人が一番嫌いだっただ授業として語るのが遠近法だ。何の課目の中でやるのかは忘れたが、中学2年ぐらいで相当の時間を費やして遠近法の授業がある。例えば列柱などを描かされるのだが、遠近法の理論通りに正確に一本一本の柱の幅等の計算をするには非常な労力が必要だ。単なるルネッサンス的教育の伝統の遺産と言ってすますことの出来るものか、あるいはこうやって世界の見方を決定することこそ幾何学の精神を植えつけるものだと思ふに信じているのだろうか？

「天国と地獄」

地獄とは、フランス人の機械工、ドイツ人の警官、スイス人の恋人、イタリア人の行政官、イギ

リス人のコック。天国とは、フランス人のコック、
ドイツ人の機械工、スイス人の行政官、イタリア

人の恋人、イギリス人の警官。アメリカ人の見た
天国と地獄だそうだ。